

国際財政カンファレンス「地方財政の過去・現在・未来」

社会科学研究所

社会科学研究所は、国際財政カンファレンス「地方財政の過去・現在・未来」を7月6、7の両日、サテライトキャンパスで開催し、日中の研究者による学術的交流を通じて、地方財政から日中の財政制度のあり方を検討した。

日・中16人の研究者が討議



2日間にわたり活発な討議が行われた

このカンファレンスは、地方財政のキーワードとなる、地方税・一般補助金・公的扶助・地方債・特定補助金・地方独自課税などを論題に、それぞれ50分間の研究報告と討論で構成。日本側は金子勝慶應義塾大学教授、中国側は、2010年にGDP(国内総生産)で日本を抜き世界第2位の経済大国となったが、地域間格差の拡大や急速な少子高齢化など大きな課題を抱えている。

授はじめ、本学を含む6大学から10人の研究者が、中国側は上海財経大学公共経済与管理学院の6人の研究者の合計16人が出席。2日間、活発な討議が行われた。

初日、宮崎晃臣事務局長(経済学部教授)の開会あいさつ後、原田博夫大学院経済学研究科長(経済学部教授)が「日本と中国は東アジアの国として同じ文化と社会構造をもつ。そうした意味で日本と中国の地方財政を比較することはたいへん有意義なこと」と語り、中国の研究者に対し歓迎の言葉を述べた。

続いて町田俊彦社会科学研究所長(経済学部教授)と蔣洪教授(上海財経大学教授)が地方財政をテーマに講演。町田教授は、日本の地方財政制度の過去と現在を詳細に解説する中で、消費税増税と税収配分の関係に触れ「国から地方への税源移譲が、今後の地方財政の力ギとなる」と語った。

蔣洪教授は、地方と中央の財政制度における権限構造や問題点を概説し「中国の地方政府は立法権も徴収権もなく権限を中央に委ねざるを得ない状況にある。予算の適正な執行と情報公開を求めて改革を進めるべきだ」と語った。

社会科学研究所は今回のカンファレンスで、中国の地方財政制度の現状と日本側との違いを明らかにし、今後の交流の場を確保する。また「第一印象はコミ ユニケーションの第一歩」と語り、笑顔を心がけ、意識的に自己紹介をすることができると語り、行動にエネルギーを集中した。

「ファッションを仕事にする」60人が聴講

女性が社会で活躍する力を養うHEIB講座が生田キャンパスで開講中だ。

HEIB講座

7月10日に行われた前期第8回講座では、元トウモロランド人材開発室長の信川幸代さんが「ファッションを仕事にするということ」をテーマに講義を行い、約60人が聴講した。



講演する信川さん

トウモロランドに18年間在籍した信川さんにとって「ファッションを仕事にする」ということは自分を磨き続けることだ。そのために365日五感を鍛え、自分が「好きだ」と言えるものを持つことが大切と説く。講義では実際に「私にとって大切なこと」「私にとって達成したい結果」「10年後に在りたい

私の姿」を書き出し、参加者同士でディスカッションするワークも行われた。また「第一印象はコミュニケーションの第一歩」と「就活」を控えた学生たちを激励した。

KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミー

アカデミー修了生らが体験発表

第2回特別講演



KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミーと川崎市主催「誰にでもわかるソーシャル・ビジネス」の第2回特別講演が6月30日、本学サテライトキャンパスで開催された。

第1部は「ソーシャル・ビジネスが社会を変えよう」と題し、鹿野世商学部教授が講演。高まるソーシャル・ビジネス(「社会的な課題を、ビジネスの手法を取り入れて解決すること」)の必要性や課題を解説した。

鹿野教授は「事業を継続させるためには、適正な対価を得て収益を確保することが重要。そのためには新しい問題解決の方法の創出と、リーダーとなるべき人材の育成が大事」と述べた。

「社会貢献」テーマに公開講座

環境、CSR、イクメン支援など



7月28日、第1回「2人」のトップランナーから「環境、CSR、イクメン支援」がテーマの公開講座が行われ、川崎市の川崎市民センターで約60人が聴講した。

KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミーは、5カ月間にわたり大学院レベルの講義と、地域や街の課題解決に取り組むPOや企業での現場研修などを提供し、ソーシャル・ビジネスに取り組む人材を養成する。10月からの平成24年度開講に向けて「社会に貢献できるソーシャル・ビジネス」と題する全2回の公開講座を開催する。

受講生を募集
川崎市と専修大学が共同で開催し、ソーシャル・ビジネスの人材を育てる「KSソーシャル・ビジネス・アカデミー」(川崎市・専修大学共同市民ビジネス人材育成事業、専修大学大学院経済学研究科特別教育プログラム)が10月から始まり、受講生を募集する。

受講生を募集
期間：2012年10月2日(火)～13年2月9日(土)
募集人員：受講生30人、部分履修生5人
学費：受講生5万円、部分履修生(1科目)1万円
教室：専修大学サテライトキャンパス(向ヶ丘遊園北口駅前アトラスタワー2階)
申し込み期間：9月3日(月)～9月12日(水) [必着]
選考：書類審査(1次)・面接(2次)
募集説明会：8月20日(月)19時、川崎市産業振興会館(同27日)19時、川崎市産業振興会館(同27日)19時、川崎市産業振興会館(同27日)19時、川崎市産業振興会館(同27日)19時

安藤氏は、「主体的に子育てをする父親が増えれば企業の意識も変わり、子育てしやすい社会につながる」と語った。第2回は9月2日にサテライトキャンパスで「支援とは何か」大学、NPO法人が取り組む社会貢献」をテーマに開かれる。